

# 令和3年度 赤ちゃんから学ぶ講座 実施報告書

(赤ちゃん和小学生のふれあい体験事業)

知多市児童センター



## 1. 事業目的

近年、社会の中で核家族化、少子化問題が深刻化し、子どもが成長する過程で、自分より小さな子どもや、乳幼児に接する体験の機会がないまま大人になる人たちが増えています。そのため、親になって初めて赤ちゃんに接することになり、実際に赤ちゃんを目の前にして、どう接して良いか戸惑うことも少なくありません。

国は、乳幼児とふれあう取り組みを、児童館の新たな取り組みとして位置づけ、市でもこの事業を、子ども・子育て支援事業計画の施策として位置づけ実施しています。(令和2年度は感染症予防のため、事業を中止しました。)

小学校6年生を対象に、令和3年度も乳幼児親子とのふれあいは中止とし、DVD視聴・講座、赤ちゃん人形での疑似体験を実施、赤ちゃんの成長過程と親のかかわり、子育ての大変さと成長の喜び、命が大切に扱われていることなどを改めて感じ、そこから親、家族、そして自分を取り巻く周りの人への思いや、すべての命の大切さについて考える機会とします。

## 2. 実施校・開催日時等

実施校	日にち	クラス・人数
岡田小学校	10月26日(火) 2限目	6年2組 34名
	3限目	6年1組 33名
	4限目	6年3組 35名
つつじが丘小学校	11月18日(木) 2限目	6年1組 27名
	3限目	6年2組 26名

## 3. 内容

### (1) 『命の授業』を思い出してみよう

- ・4年生で行われた健康推進課による『命の授業』の振り返り。
- ・PPによる写真で赤ちゃんの成長する様子を見て、赤ちゃんについての印象、赤ちゃんとかかわった経験の有無などから、赤ちゃんのイメージを膨らませる。

### (2) DVD視聴

- ・『親と子の愛着』についてのDVDを、赤ちゃんの発達過程と、その時期の親のかかわりについて知り、自分の幼少期を回顧ながら視聴する。

### (3) 赤ちゃん人形を使って疑似体験

- ・3kgの人形を抱っこし、赤ちゃんの重さ(命の重さ)を実感、抱くときには、首が不安定なた

め、支えながら抱っこする経験をし、大切に扱わないと命の危機につながることなど、大人の手を借りなければところから、命の大切さを実感する。

#### (4) 講座のまとめ

・ひとことメッセージを記入して模造紙に貼り付ける。

(家族・友人などに向け、今自分がここにいることについて記入、用意した台紙に自分で貼り付け、本日の講座で学んだこと、感じたことを振り返る。)

## 4. 講座の様子

今年度も令和2年度に続き、乳幼児親子とのふれあいを中止しました。

講座の中で、令和元年度のふれあい体験の様子を映像で紹介し、生徒が赤ちゃんを楽しそうに遊ぶ姿や、大切に抱っこする姿、また、赤ちゃんのお母さんと笑顔で話をしている場面など、ふれあい体験の様子を知ってもらいました。



4年生の時に受けた『命の授業～命の始まりを知り、命の大切さを知ろう～』（健康推進課による）の振り返りを行い、おなかの中で育っていく赤ちゃんの様子を映像で伝えました。胎児が数カ月で成長する様子を興味深く見る生徒の姿が印象的でした。

その後は、赤ちゃんが誕生してから育っていく間の様子を、具体的な動画で紹介しました。

生まれて間もない赤ちゃんが泣く様子の動画からは「赤ちゃんはただ泣いているのではなく、意味があって泣いていることがわかった。」「赤ちゃんなりに泣いてお母さんにいっしょけんめい伝えようとしているのがすごい。」「泣くことは赤ちゃんの言葉だと知った」と赤ちゃんが泣く事を理解しました。

また、初めてお座りができた時、一人歩きができた時の動画で、赤ちゃんが親を確認して嬉しそうに笑う様子、初めてできたことに対して喜ぶ親の様子などから、「子育ては大変だけど、その中にある喜びがわかった気がする。」「赤ちゃんとお母さんや家族のコミュニケーションはすごく大切なんだな。」と親やまわりの人達のかかわりが、子育てに必要なだということを感じています。

さらに仕事から帰ってきたお父さんを即座に見つけ、抱っこしてもらった様子からは「赤ちゃんはすごく弱い生き物だから、みんなから支えられているのだと思った。」と小さな命がみんなで大切にされていることに気付くこともできたようです。

その後は、DVDで赤ちゃんの発達と親と子のかかわりを学び、疑似体験に臨みました。

## 5. 疑似体験の様子

疑似体験は、3.4人に1体の人形を使い、だっこ体験、おむつや着替えをするお世話体験を行いました。人形を乱暴に扱う子はおらず、初めて抱っこするときは皆が真剣に向き合っていました。人形とはいえ3kgの体重を実感し、おむつ替えに悪戦苦闘する様子が見られました。



小さな弟妹がいる生徒が率先して体験し、友人たちにもおむつ替えの方法などをアドバイスをする様子も見られました。かわるがわる体験し、「赤ちゃんの頭が重くて首がぐらぐらしていたので抱っこが難しかった。」「赤ちゃんを抱っこするには色々なことを気を付けなくてはいけないことがわかった。」「赤ちゃんのお母さんは大切に赤ちゃんを育てていると思った。」など感じています。

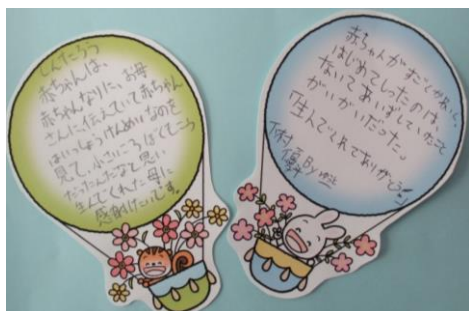
さらに、「頭が重くて支えないと首が折れてしまいそうでこわかった。一步間違えたら死んじゃうかもしれないと思いました。」と命とつながる考えを持った生徒もいました。



## 6. 赤ちゃんから学んだこと

今年度は講座と体験を終えた直後に、講座で感じたことや、誰かに伝えたい気持ち、赤ちゃんを知って思ったことなどをカードに記入し、自分たちで貼り付けてもらうようにしました。

講座の終了後に改めて記入するのではなく、講座の中の短い時間で感じたことを記入したことは、その時の素直な気持ちを書き表されていると感じました。また、その場で貼り付けることは、他の生徒がどのような気持ちを持ったのか、その場で知ることができ、いろいろな人の考え方を知るよい機会になったのではないかと考えます。



【講座後の感想より】



・赤ちゃんは思ったよりもすごく重くて、抱っこすることが難しかったです。抱っこの仕方も首を揺ら

しちやいけないことが分かった。

- ・お母さんって本当に大変なんだなと思いました。家に帰ったら感謝を伝えなきゃなと思いました。
- ・お母さんやお父さんは、すごく時間をかけて育ててくれたんだと実感しました。
- ・命は大切ということは分かっていたけれど、ここまでは思っていなかったから、これからはもっと命を大切にしようと思いました。
- ・大きくなったら、やさしい母さんになりたいと思いました。
- ・赤ちゃんを抱っこしてみても人形だと簡単に思えるけど、本当の赤ちゃんだったら大変だなと思いました。
- ・赤ちゃんを育てるのは、とてもむずかしいし大変なのに、がんばって育ててくれたお母さん お父さんは、すごいなと思いました。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・今日のふれあい体験をして、昔の妹がこんな感じだったな、と思い出しました。
- ・赤ちゃんは重くて、手がグーになっていて面白いなと思います。今日の体験をみんなと一緒にやれて楽しかった。



## 7. まとめ

今年度は「赤ちゃんから学ぶ講座」として実施しましたが、講座と疑似体験で、小学生は赤ちゃんについて理解を深め、家族への感謝の気持ちを持ち、命について考える機会が持てたのではないかと考えます。

疑似体験をどこまで活かしたふれあいに近づけることができるのか不安がありました。しかし、講座の時間が終わっても赤ちゃん人形と別れがたく、玄関まで大切そうに抱いてくれ、名残惜しげに教室に戻っていく生徒もいました。その様子からも、ある程度の成果が得られたのではないかと考えます。

